

本人も驚きの初V

山男がフェアウエーを制す

《第47回九州グランドシニア選手権》

～ブリヂストンCC

通算6オーバー 150

坂田 巧（大博多、73歳）



思わずキョトンである。坂田は最終組の1組前にホールアウト。最終組が上がって来て優勝を告げられても、まだ信じられない。「実感がない。うまい人がいっぱいいるし。優勝？運じゃないですか」。万歳をするわけでもないし、笑顔さえない。坂田にとっては初めて手にするビッグタイトルだった。

2日間とも出だしの1番ロングはつまずいた。初日は第1打を右の池に入れ、最終日はピンまで残り70ヤードの第3打をトップしてOB。いずれもダブルボギーだ。ただその後を踏ん張った。2日間とも「75」。坂田が「運」を強調したのが最終日12番

ロングのバーディー。バンカーからピンまで24ヤードの第3打が直接カップインした。「あんなチップインはめったにない。バケツ一杯打っても入らない」。勝つときには、こんな離れ業も起きる。

熊本県上天草市大矢野町生まれ。高校まで地元熊本で過ごし、千葉工大へ進学。大学ではラグビーに取り組む。ポジションは身長182cm(現在は179cm)を生かし、ナンバー8やロック。卒業後、関東のゼネコンに就職→福岡で友人と会社設立→1988年、36歳の時に独立して「スペースエンジニアリング㈱」を立ち上げた。どういう会社かというと、応力測定、ひずみの計測、地滑りなどの計測・測定、土石流や岩盤崩落の感知センサーの設置などを行う。現在は息子さんに任せ、相談役として残る。

今はゴルフ一筋だが、40歳から登山に明け暮れ59歳まで続けた。日本国内の山を中心に、正月は15年間、北アルプスや八ヶ岳で過ごした。ゴルフは30歳過ぎから始めたのだが、年3回ほどの付き合い程度。大博多CCのメンバーになった50歳あたりから本格的に取り組むようになる。

インタークラブの強豪・大博多の代表メンバーに加わったり(九州インタークラブと九州ミッドシニア、九州グランドシニアの大会日程が近い理由で、2年前から代表メンバーを外れる)、2019年の日本ミッドシニア、2023、2024年の日本グランドシニアにも出場。九州での優勝こそなかったものの、平均飛距離240~250ヤードのドライバーを武器にいつも上位に顔を出す実力者である。

ゴルフは自分との闘いとはよく言われるが、坂田の場合は自分の体との闘いでもある。登山での影響か、脊柱管狭窄症を患い、両膝の半月板も除去。心房細動にも悩まされている。今年はそのせいで九州シニア予選を欠場した。また、今大会も初日に苦しめられた。「(最終日まで)もたんかもしれん」という状態だったが、ラウンド後、病院に直行。薬を処方してもらって最終日に備えたのだった。

「(日本グランドシニアは)お祭り。楽しんで来ようと思う。体の調子次第だね」。これまで出場した3度のジャパンの大会でも病に襲われているだけに気がかりではあるが、いずれも乗り越えて来た。山男は強い。



《ブリヂストンCC》

